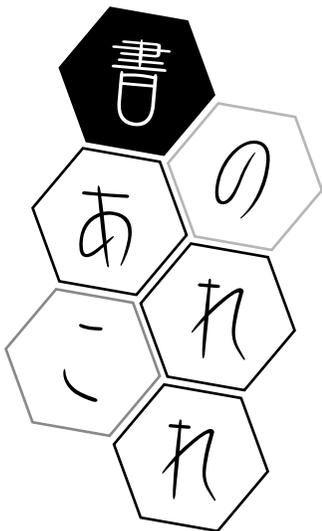


競書最優秀作品

近現代	清	明	元	金・南宋	北宋	五代	唐	南北朝 (三国~隋)	後漢	前漢	秦	古代
-----	---	---	---	------	----	----	---	---------------	----	----	---	----



狂僧の懷素さんの残した書(二)

古谷 春峰

二月号の続きです。懷素さんは若いころから書が上手で有名人でした。当時の上流階級の人々が彼の書をほめたたえた詩がたくさん残されています。彼の書は特に草書が有名で中でも「自叙帖」(図1)、「草書千字文」(図2)が代表作です。

自叙帖(777年)：多くの草書作品の中で特に有名な傑作です。狂草の代表的な作品とされています。自分の書の技をこれでもかと見せつけているような作品です。お酒に酔った勢いでスピードに乗り、変化のかぎりを尽くしています。乱暴に書いているよ

うに見えますが一種の格の高さを失ってはいません。名筆と呼ばれるにふさわしいものがあります。

自叙帖の内容はどんなものなのでしょう。自叙とは本来自らの経歴を述べるものなのですが、この文はちよつと変わっています。多くの有名な人からいかに自分の書がほめたたえられているのかを自慢げに書きつづっているのです。さらに同じようなものを何枚も書いて方々に配っていたのです。今で言うところのチラシのようです。恥かしげもなくこんなことをやっているとは、懷素は相当な心臓の持ち主だったようです。

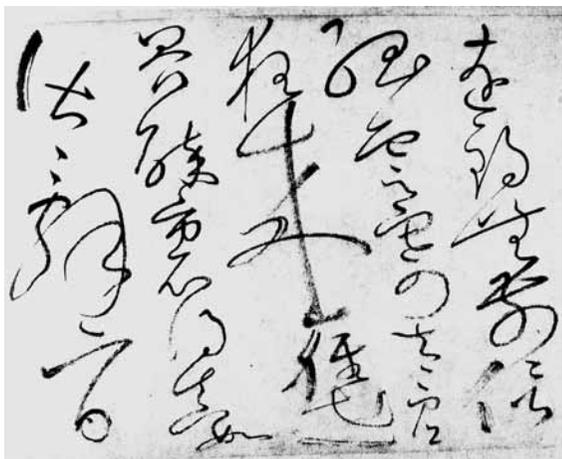


図1 自叙帖

草書千字文(799年)：図2を見て下さい。図1と比べると別人が書いたような大人しい落ち着いた感じがあり渋い味わいがありますね。自叙帖とはまさに正反対のおもむきです。千字文とは周興嗣(464~549)という人が作った四字一句が二五〇句並んだ中国の四言古詩です。すごい所は一、〇〇〇字が一字も重複していない点です。多くの書家がこの千字文を書いています。懷素も書き残した一人です。彼の書いた千字文は一字が金貨一枚の価値があると言われ「千金帖」とも呼ばれています。金貨一枚が？万円だとすると一体どれくらいの値段になるのでしょうかね。皆さんには図1の自叙帖の方がおもしろく感じるかも知れませんが、草書千字文には老境の枯れた雰囲気があり、内容的には自叙帖に負けない良さがあると思います。この作品は懷素の最晩年の作品ですので、彼の長い書道人生で到達した書の境地を示すものと言えるでしょう。今回も少しむずかしい話しになってしまいましたね。

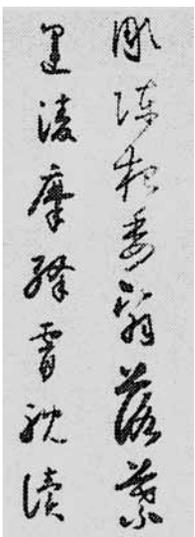


図2 草書千字文(千金帖)

<p>なみ 著雨2板けんせい</p>	<p>なみ 雄山特選みはな</p>	<p>なみ 書清初段大川あこ</p>	<p>なみ 白まき 里衣菜</p>
<p>育心が 花成 洋五段</p>	<p>育心が 陽平 六段 羽唄</p>	<p>起死 山崎 由李</p>	<p>東西 西館 洋五段 碧椽</p>
<p>童話 花成 斗十段 葉乃</p>	<p>童話 柔心 十段 佑希</p>	<p>真理 花成 二段 福能美早紀</p>	<p>室山 ハ 伊藤優空</p>
<p>若白依依</p>	<p>雄山 2.セトウリほ</p>	<p>系とはりでぬう</p>	<p>メイ 三 張 莉娜</p>
<p>おには外福は内 たのしい豆まき</p>	<p>おには外福は内 たのしい豆まき</p>	<p>虫や魚には多くの種類があるよ の種類の多い魚には多くの種類があるよ</p>	<p>スイセン 単にスイセンと示すは、示すスイセンを指すことが多い。庭や花壇に植えらる花が清楚なものから大型のものなど、春の花壇には欠かせない。</p>
<p>おには外福は内 たのしい豆まき</p>	<p>おには外福は内 たのしい豆まき</p>	<p>虫や魚には多くの種類があるよ の種類の多い魚には多くの種類があるよ</p>	<p>有心 四 須藤 蒼太</p>
<p>おには外福は内 たのしい豆まき</p>	<p>おには外福は内 たのしい豆まき</p>	<p>虫や魚には多くの種類があるよ の種類の多い魚には多くの種類があるよ</p>	<p>有心 四 須藤 蒼太</p>

※郵便は〒101-8715 神田局私書箱37号へ 宅配便は〒100-0054 千代田区神田錦町1-10-1 サクラビル1Fへご送付お願い致します。
※お振込は郵便振替、または三菱UFJ銀行(ホームページ)「お支払い方法」参照にて会員番号を明記の上、ご入金をお願い致します。